

つながりサポート事業 【滋賀県草津市】

総事業費	3,579千円
交付金額	2,679千円

地域の実情と課題

事業③と同様に コロナ禍による社会状況、雇用形態の変化等により生活困窮、居場所の喪失による貧困・孤独・孤立に不安を抱える女性が増加している。
 そういった女性においては、必ずしも自ら助けを求めて行動できるとは限らない。当該女性のニーズや悩みを掘り起こし、必要な支援へとつなげ、いきいきとした生活のサポートをすることが女性活躍推進においては課題であると考えられる。

事業の特徴

コロナ禍において、貧困・孤独・孤立により不安を抱える女性が、社会の絆・つながりを回復することができるよう、生理用品や食料品の提供を通じて、対象者を必要な相談窓口や各種サービスにつなげるとともに、民生委員・児童委員等の地域の支援者につなげていく。
 また、連携会議や研修会を実施し、地域で見守り支援体制の強化を図る。
 事業は、草津市社会福祉協議会に委託して行った。

事業の効果

- 社会福祉協議会へ委託し、窓口を広くしたことで、団体の行う各事業と連携して女性の支援を啓発し、実績につなげることができた。
- 各関係機関を合わせた当事業の総相談件数 741件（目標350件）
- 小中学校での生理用品の提供を行ったことで、保健室で手渡しする際、学校や家庭での悩みを児童から相談してくれた、という声があり、先生とのつながりが持てたほか、先生自身が生理の貧困について考える機会になった、との声もあり、児童生徒のみでなく、学校組織にも事業効果が及んだといえる。

目的・目標

- 生理用品の提供を通じた各種サービスや就労情報の提供
 目標 2,000セット
 実績 868セット（窓口提供時は22ヶ入り 1パック×2=1セット）
 個装 12,563個（約400セット相当）
- 女性の社会的課題についての研修の開催（支援者の人材育成）
 目標 100名
 参加者 91名

連携団体

- 草津市社会福祉協議会
 事業の企画・運営・課題整理
- 学区まちづくり協議会（2学区）
 情報共有、各種支援の情報提供
- 学区社会福祉協議会、民生委員・児童委員、ボランティア
 最前線の支援状況の情報提供
- フードバンク滋賀
 生理用品、食料品の提供を通じて、各種支援情報の提供を協力いただいた

今後の課題

令和4年度は、令和3年度の事業立ち上げ段階に比べ、事業自体の認知度は上がってきている。今後は、生理用品の提供のみにとどまらず、根本的な問題解決のため専門機関や適切な支援につなげられるように工夫する必要がある。
 また、不安を抱える女性たちどうしがつながれるような居場所の運営を拡充し、地域が自立してこの事業を継続運営できる仕組みづくりを検討する必要がある。

事業の概要

◆生理用品の無料提供

窓口・交流の場で無料提供するとともに、必要な対象者に届けられるよう民生委員や社会福祉協議会の相談や他の相談機関と連携した。市内小中学校への無料提供を行った。

なお、生理用品の提供により、社会福祉協議会の他のサービスや相談、他の相談窓口につなげたり、交流の場や就労に関する情報提供をするなど、提供をきっかけにした支援を行う。夜用・長時間用ナプキンのセットでの提供を行った。

◆キラエ草津（当センターおよび草津市社会福祉協議会の入居している公共施設）内トイレへの生理用品の設置

4月および、11月の内閣府の定める「女性に対する暴力をなくす運動」啓発週間に、当該施設内トイレへ相談窓口の案内カードとセットにした生理用品を設置し、支援を促進した。

提供実績

- ・キラエ草津内と市役所内の関係相談窓口9カ所、ハローワーク、障害者福祉センター、地域まちづくりセンター等
868セット（1セット＝22ケ入り1パック×2つ 計1,736パック）
 - ・キラエ草津内トイレ（4月、11月）
個装 1,037個
 - ・市内公立小中学校 20校
個装 11,526個
- 個装 12,563個 約400セット相当

◆フードバンク事業との連携

フードバンク事業の中で食料品とともに生理用品を提供した。

◆居場所づくり事業

令和3年度から継続して、市内学区社協の拠点にて居場所づくりとしての事業を実施した。

- ・レディースカフェ 週2回
- ・ワークショップ ワークショップ 年間5回 毎回約10名程度参加
- ・明るい不登校の会 月1回 毎回9～13名程度参加

レディースカフェにおいては、民生委員・児童委員が相談対応をし、相談者のケアにつながった。転入者、身体障害者、ひきこもりの子を持つ親など、幅広い相談ケースに対応することができた。

◆令和4年9月1日より、草津市役所内にて生理用品の寄付回収開始

◆関係機関会議の開催

相談機関の連携会議を開催し、情報共有を行った。（9月、2月の2回開催、19の所属、関係機関等が参加）

◆市内学区社会福祉協議会、民生委員児童委員を対象にした研修を行った。

令和5年2月7日

テーマ「ひきこもりについて考える～地域としてできること～、（91名参加）

講師：池上正樹さん（ジャーナリスト）、公文優子さん（フリータイム 相談員）



生理用品提供の際の目印「チューリップ」と、草津市社会福祉協議会マスコットキャラクター「ふくちゃん」